

第10回各医師会新型コロナウイルス感染症担当理事者会

初めに 今から説明する内容は厚生労働省が決定をして各県医師会に通達され、さらにそれが各市町村と各郡市医師会に通達されている状況です。現段階では未定の部分も多いのですが、決定されている事項だけでかなり多くの問題が見受けられる状況となっております。今回はまずは基本的でかつ重要な点を抜粋してご報告させていただきます。

1. ワクチンの種類、特徴について

ワクチンは全部で3種類、すべて2回接種が必要。

- ① ファイザー社 1億2千万回分＝6千万人分 保管温度 －75度 最小流通単位 195バイアル＝975回分 －75度で2ヶ月間保管可能（ただし流通機関での時間を含むと思われる）室温で融解後、接種前に生理食塩水で希釈、希釈後は室温で6時間しか持たない、再凍結不可。1バイアル5回分
- ② アストラゼネカ社 1億2千万回分＝6千万人分 保管温度 2－8度 希釈不要 最小流通単位10バイアル100回分と2バイアル20回分 1度針を刺していても48時間は冷蔵保管可能 1バイアル10回分
- ③ 武田/モデルナ社 5千万回分＝2千5百万人分 保管温度 －20度 最小流通単位10バイアル100回分 希釈不要 解凍後は6時間しか持たない、再凍結不可 1バイアル10回分

2. ワクチンは国の指示のもと、都道府県の協力により市町村において実施する。接種を希望される方は原則、住民票所在地の市町村で接種を受けることになります。これにより原則小郡市民は小郡市で、大刀洗町民は大刀洗でうけることになります。北野町は久留米市になるので久留米市内での接種は問題ないそうです。当院もそうですが小郡大刀洗間は交差が多く当院かかりつけの小郡市民もいますし、小郡市の先生の診療所に大刀洗町民がかかっていることもあると思います。その場合は原則打てないのですが、後の厚生労働省のQ&Aで「近隣の複数市町村で接種体制を構築する場合には、住所地自治体の医療機関と同等の取り扱いとしていただくことは差し支えありません。この場合、国保連を通じずに、直接請求支払を行っていただくこととしています。」となっていますので小郡大刀洗間の接種はできるのではないかと思います。

3. ディープフリーザー（冷凍庫、以下冷凍庫と記載）について

ファイザー社用冷凍庫－75度保管可能が3000台→後の発表で10000台に増産 武田用冷凍庫－20度保管可能が7500台を国が金銭負担して確保している、各自治体に最低1つ流通する。そして冷凍庫を置く場所はそれぞれ1ヵ所に決めないといけないうえに、冷凍庫に入れたワクチンは原則そこでしか使用することができない。

ファイザー社のワクチンについては冷凍庫が無いところではドライアイスで冷やして管理する、このドライアイスも国が負担する。ただしドライアイスでの保管は10日が限度とのことで10日で975回分を使用しきるのは小郡三井医師会内では実質不可能と思われる。

現状契約がすべて終了しているのはファイザー社であり、最初のワクチンはファイザーが大多数になると思われる。しかし－75度保管、希釈が必要、975回分がワンセットのため医療従事者や患者さんに大量に使用して数をはけないと廃棄が大量に出てしまうといった特徴から無床診療所で患者さんに打つのみで使用するのは不可能で総合病院もしくは集団接種の会場になるところしか使えない。無床診療所はアストラゼネカか武田しか使用することができないと考えられる。

はじめ冷凍庫の話聞いたときにファイザー社の冷凍庫を小郡三井医師会において、各医療機関にそこから必要なワクチンを持ってもらうことを想定しましたがワクチンを冷凍庫に入れて保管したらそのワクチンはそこでしか打てないということであった。小郡市の冷凍庫は1台目が2月に来ることになっておりそれ以降3台くる予定があり、1台目は嶋田病院において使用するか医師会において集団接種に使用するの、数をこなす方法と思われたのですが、その後の厚生労働省からの通達で「1台目の冷凍庫は基本型接種施設におき、医療従事等への接種体制を構築する」となっており、現実的に嶋田病院にお願いするしかないと思われます、その後順番に来る冷凍庫については医師会に置くのかどうかと嶋田病院以外の有床の病院（丸山病院、聖和記念病院など）におくことを検討することが必要と思われます。

大刀洗町は事前の話し合いで町役場に冷凍庫を置いて集団接種をするというのを検討するのが無難であろうかと思っています。大刀洗町も断らなければ後日2台目がくることが決定しており、どこで使うか非常に悩ましいところであると私と柳純二先生と役場スタッフで協議したいと思います。

北野町も久留米市役所職員が「神代病院が受けてくれればいいのですが、うけてくれなかったらどうしたらいいか」といっていました。北野町は役所職員とまた協議をして、神代病院に説明に伺うことを検討します。

国から支給されるファイザー用の冷凍庫は1台目を置く場所を各市町村は 1/25

までに決定して報告しなければいけない期限がありますので、それまでに対応が必要となるため、今回の理事会で必要な分は協議させてください。

冷凍庫で保管するワクチンがそこでしか使用できない件も後の厚生労働省の Q & A で「やむを得ない場合の例外的な取扱いについては条件等を検討中であり、詳細は追ってお示しします。」となっていますので変更があればお伝えします。

4. V-SYS について

ワクチンの使用については V-SYS というコロナ検査で言う G-MIS のようなシステムでパソコンで接種数を入力し卸業者からワクチンをいれてもらうようなシステムを検討中になっています。この制度については詳細な説明が 1 月末に行われる予定とのことでした。

5. 接種費用

接種 1 回当たり予診費用 1 5 4 0 円、事務費 1 8 0 円、接種費用 3 5 0 円の合計 2 0 7 0 円を国が支払うこととして、これを経費として医療従事者、事務員などの人員、接種会場、接種に要する器具などを確保するようにと説明がなっていました。

6. 接種体制の構築案

現状今後のスケジュールとして、厚生労働省から下記で予定しているとありました。

- ① 2 月末 医療従事者向け先行接種 約 1 万人程度
- ② 3 月中旬 医療従事者向け優先接種 約 3 0 0 万人程度
- ③ 3 月末から 4 月初旬 高齢者向け優先接種 約 3 . 4 0 0 0 万人程度
- ④ ①から③が終了したらその他の方の接種になるが、基礎疾患を有する者、高齢者施設勤務者などを優先とすることを想定している。

小郡三井医師会の医療従事者のワクチン接種はすべて②の時期になると思われる。対象は医師（医師会入会の有無にかかわらない）、歯科医師、看護師、薬剤師、その他医療機関の責任者が感染対応をしたほうがいいと思われる職員（事務職員など）になるそうです。

ほかにも内容はありましたが量が膨大でまだ決定していないこともあるため、ひとまず重要で優先順位が高いと思われるものを羅列させていただきました。